

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	小川村
------	-----

No.	事業項目	事業名
1	「木を活かした力強い産業づくり」に関する事業	木製バス停製作事業
事業費 894,300円 (うち支援金: 575,000円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

森林を地域が持続的に管理していくためには、地域の消費者が求める木材を地域で生産し活用する「地消地産」の取組を推進することが必要である。

(2) 本事業の目的

((1) の課題への対応方向について記載)

間伐材の普及啓発を行うため、間伐材を利用した木製バス停を本村の県道沿いの初引地区へ設置することにより、通行者及び観光客や地域住民の注目を浴び、木の温もりを意識することで、県産材利用の動機付けを図り、将来における県産材の利用者(将来の木の使い手)づくりにつなげる。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 : 小川村大字小根山(初引地区)

(2) 対象者 : バス停利用者

(3) 実施方法 : 県産材を利用したバス停を製作して設置する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30 年度～令和 4 年度)

平成 30 年度: にこにこ保育園 キッズハウス等

令和 元年度: 木製バス停・ベンチ製作

令和 2 年度: 林りん館 ウッドボイラー購入

令和 3 年度: 木製バス停製作

令和 4 年度: 小川小学校 裏山ランド整備 木製遊具等

②令和 3 年度実績

木製バス停製作設置 1 棟

事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

間伐材利用の推進、間伐材利用の啓発、癒しの場の提供、県産材資源のPR、森林税のPR

(2) 継続性

地域のバス停は幅広い世代が利用することから、県産材を使うことにより、木の温もりを体験できる空間を提供できる。さらに県産材利用の動機付けを図り、将来における県産材の利用者(将来の木の使い手)づくりにつなげる。

(3) 普及性

主要県道沿いの施設になるため、県内外から施設が注目されることが期待できる。幅広い世代が利用することから、地域住民の利用者拡大につなげる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

木製バス停を設置することにより、雨風をしのぐ場所を提供することにより、県産材と触れ合う時間が増える。また、待ち時間も安全にバスを待つことができる。

地域住民等に対して木のぬくもりを与えることができ、県産材のPRができる。

(2) 課題

今回は、地区要望により事業目標の全体事業計画を変更したが、建物を長期的に維持管理するためには、地域の理解が必要である。県産材の利用量は一時的に増加するが、継続して利用することができない。

(3) 今後の取組方向(今後の事業実施見込について記載)

今後は、県産材の有効活用として、保育園及び小学校への木製遊具等の整備を検討していきたい。

小川村 バス停留所

